

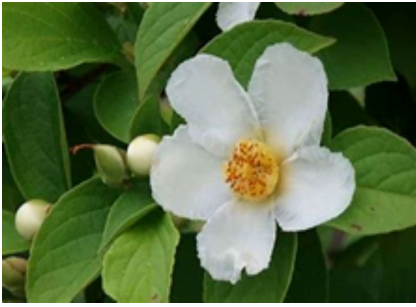
# 「あいこう・ふなこ9条の会」ニュース

## G7「広島サミット」被爆国日本の首相は、何を発信したのか

### G7「広島ビジョン」の欺瞞「怒」の声

広島サミット閉幕後、岸田総理は誇らしげに「核兵器のない世界に向けた国際的な機運を今一度高めることが出来た」とその成果を自慢した。しかし「広島ビジョン」は、180度その成果を覆し欺瞞性を露わにした。

被爆者のサークロ節子さんや核兵器廃絶に係わる多くの良識ある人々が怒りの声を挙げ、廃絶を阻害している根本的な原因を指摘している。岸田首相の遠縁だと言うサークロ節子さん



ヒメシヤラ

は広島ビジョンを「広島に来て、今更こんなことしか言えないのか」と、声を震わせ嘆いた。

### 戦争被爆国の首相が、世界に向けて発信すべきことは

岸田首相は、「唯一の戦争被爆国」日本の首相を売り物にしていくが、それなら「唯一の加爆国」が存在する。そして他でもない「加爆国」米国が、人類史上最も非人道的兵器・核爆弾の使用を「戦争を終結」させるためと肯定している。それは、核兵器を抑止力として肯定する事に通じている。核所有を背景に、「民主主義」を守ると称し、アフガニスタン、イラク等幾多の国に侵攻し数百万の民を殺戮した米国。米国に付き従うG7参加国に、独裁者プーチンのウクライナ侵攻を非難する資格などないと思う。核

の抑止力を背景に軍拡競争に突っ走っているのが日本を含めた世界の愚かな現実。核保有8カ国の内G7の3カ国に、まずは核廃絶を迫る事こそ「唯一の戦争被爆国」首相岸田の、課せられた任務だったのではないだろうか。

### 「広島」を看板に、権力私物化と被爆者の願いを無視

広島生まれでもなく

5月19日から3日間にわたり、広島で主要7か国首脳会議（G7）が開催されました。

今回は、被爆地広島での開催であることから、核兵器廃絶に向けた前向きなメッセージが出されるのが期待されました。

ところが19日の夜発表された「広島ビジョン」は、核兵器による威嚇によって他国を押

育ててもいない広島を、選挙区にしているだけの議員の選挙パフォーマンス、敢えて言うなら、広島サミットで使われた血税は県・市で百億円超、国で二百億円はくだらないという。それが全く被爆者に寄り添う事もなく使われてしまっている事の情けなき。

岸田首相は、息子の総理秘書官を党内外からの批判を受け、更迭せざるを得なかったが、息子の権力の私物化は彼が親を見習った結果引き起こされてしまったと思わざるを得ない。最後に、『理想は現実を見て語る』というが、理想の実現は、現実を否定する事からしかなしえないのは自明の理である。まさお

さえようという「核抑止力」論を公然とかがり、核廃絶は永久に先送りしました。2021年1月に発効し、世界の68か国が批准、既

うちに14万人が亡くなりました。当時広島市には軍属含め35万人いたそうですが、その40%に当たります。その後も多くの人が苦しみながら亡くなりました。

### 「広島ビジョン」核廃絶は永久に先送り、核抑止論に固執

原爆資料館

に92か国が署名している核兵器禁止条約には、一言も触れませんでした。その答えが、「核抑止力」がいざとなれば使うとは！

1945年8月に米国が広島に投下した原爆によって、その年のサチコ



# 「軍需産業支援法」が 成立しようとしています

「軍需産業支援法」は、岸田政権が昨年末に閣議決定した安保3文書に基づき、今後5年間で43兆円もの大軍拡を推進させるための法案の一つです。既に衆議院を通過し、参議院での審議が始まっています。

国内の軍需産業を防衛力そのものと位置づけ、生産・技術基盤を強化し、日本経済・産業の軍事化をいっそう押し進めるものです。軍事企業が製造体制の強化などに必要と言えば、国が費用を丸ごと肩代わりし、さらには直接、製造施設を買い取り、設備投資や維持管理の負担なしに事業を行うことを可能にします。戦前・



アジサイ

戦中の工廠（こうしよう）国営軍需工場）の復活につながるのと批判も上がっています。しかも、新たな販路拡大のために、武器輸出への助成も進めるとしています。

さらに、防衛省と契約する企業の従業員に秘密保全の義務を課し、漏洩した場合は1年以下の拘禁刑（懲役）または50万円以下の罰金を科す規定も新設します。

中国包囲網の構築をねらうアメリカは、軍事情報の共有や共同研究・開発を推進するため、日本に対して官民一体の情報保全対策の強化を求めています。

メディアの活動を萎縮させ、国民の知る権利を侵害するものです。私たちは、軍事力の強化ではなく、地域の平和の枠組みを発展させる外交に全力をつくすよう政府に求めます。

山本 幸子

## チョットサイエンス

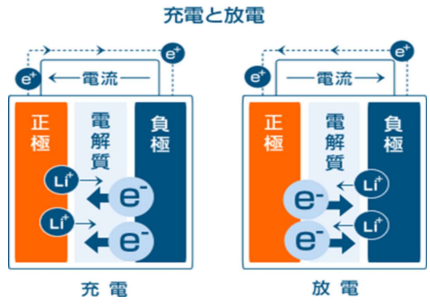
# 蓄電池のこと



太陽光発電は最も身近な再生可能エネルギー源ですが、その性質上、晴れた昼間しか発電してくれません。このデメリットを補う機器として、蓄電池があります。

### 蓄電池の仕組み

蓄電池は、硫酸などの電解液の中に、プラス極とマイナス極になる金属を入れて電流を発生します。プラス極にはイオンが溶けにくい金属、マイナス極にはイオンが溶けやすい金属を設置します。プラス極の電子がマイナス極に向かって移動すると同時に電流が生まれ、電気エネルギーとして使用することができます。この時に蓄電池の中では電解液の中にマイナス極の金属がどんどん溶け出します。これを「析出」と言いますが、マイナス極の金属がすべて析出してしまうとこれ以上電気を放出出来なくなります。反対に充電させる場合は蓄電池に電流を流し、マイナス極の電子をプラス極に移動させることによってプラス極の金属をマイナス極側に移します。これによって蓄電池の中に再び電気エネルギーを貯めることができます。



### 蓄電池の容量

蓄電池の説明の中に、容量という言葉が出てきます。これはその蓄電池に蓄えることが出来る電気の量（＝エネルギー）を示し、数字とKwhという単位が書かれています。

x x Kwh（キロワットアワー）は「家電製品の電気使用量＊使用時間」が x x となるまで使えることを示しています。一般的な家庭の蓄電池容量は5 Kwh～10 Kwhです。

一般的な電気製品の電気使用量の一例です。

冷蔵庫 (40ℓ)	190W	エアコン (暖房)	700W
電子レンジ	1500W	エアコン (冷房)	550W
電気ケトル	250W	こたつ	100W
I H調理器 (弱)	700W	洗濯機 (8kg用)	600W
ホットカーペット (3畳用)	800W	テレビ	150W

家庭用蓄電池はまだ高額で、200万～300万程度の様です。国と地方自治体からも補助は出ていますが、まだまだ高額で簡単には設置できないでしょう。国は5年間で43兆円という莫大な費用を大軍拡に使おうとしています。この予算を再生可能エネルギー設備の研究や設置補助などに回せば、再生可能エネルギーを一気に広げることも可能なのではないでしょうか。

市川隆雄